

## 傷病者対応訓練（1階アトリウム）

### 1．トリアージ訓練概要

工学院大学新宿校舎1階北口エントランスに設置した工学院大学の応急救護所に多数の傷病者が集まってしまい応急救護所だけでは対応しきれないという設定で訓練を行います。応急救護所で歩けないと判断された傷病者を1次ポストに搬送してDMAT隊がトリアージを行います。そのうち、トリアージ区分が赤・黄の傷病者を2次ポストに搬送し、もう一度トリアージを行います。

### 2．場所

工学院大学1階・北側玄関およびアトリウム

### 3．訓練参加者

傷病者：約120名（赤：5名、黄：30名、緑：85名）

- ・中・重傷者（赤・黄：35名） ムラージュによる特殊メイク
- ・軽傷者（緑：85名） 症状を記入した緑のプレート着用

学生ボランティア（学生）：50名（記録係：4名、介助・搬送：その他）

緊急医療班：健康相談室2名

緊急対応班：2名

情報収集班：2名

### 4．協力機関

東京医科大学病院、新宿消防署、新宿消防団、東京DMAT、中野消防署

#### 1次トリアージポスト（DMAT）

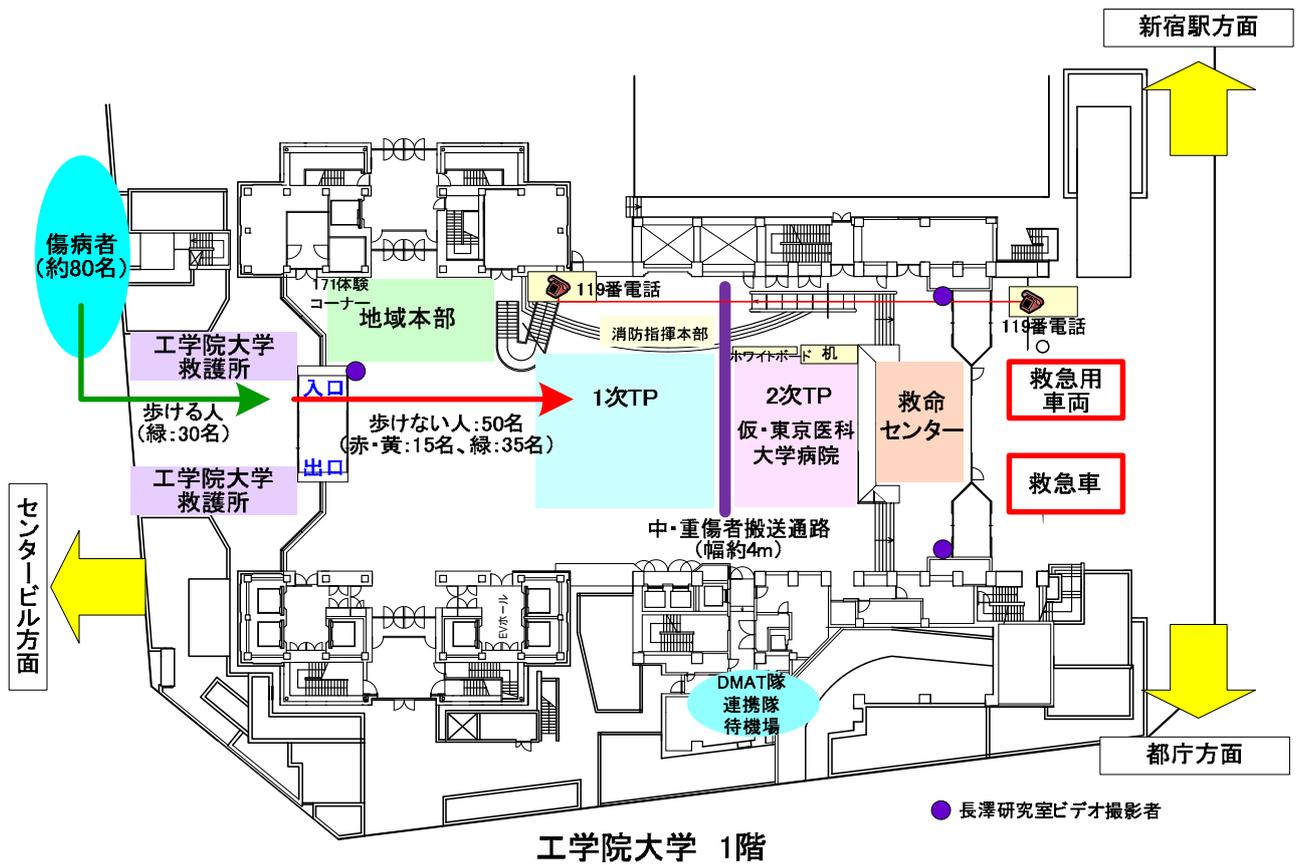
医師：1名、看護師2名、事務官：1名、救急隊員：2名、DMAT連携隊員：2名～3名  
（連携隊は周囲の安全確認を行う。トリアージには参加しない。）

#### 2次トリアージポスト、救命センター

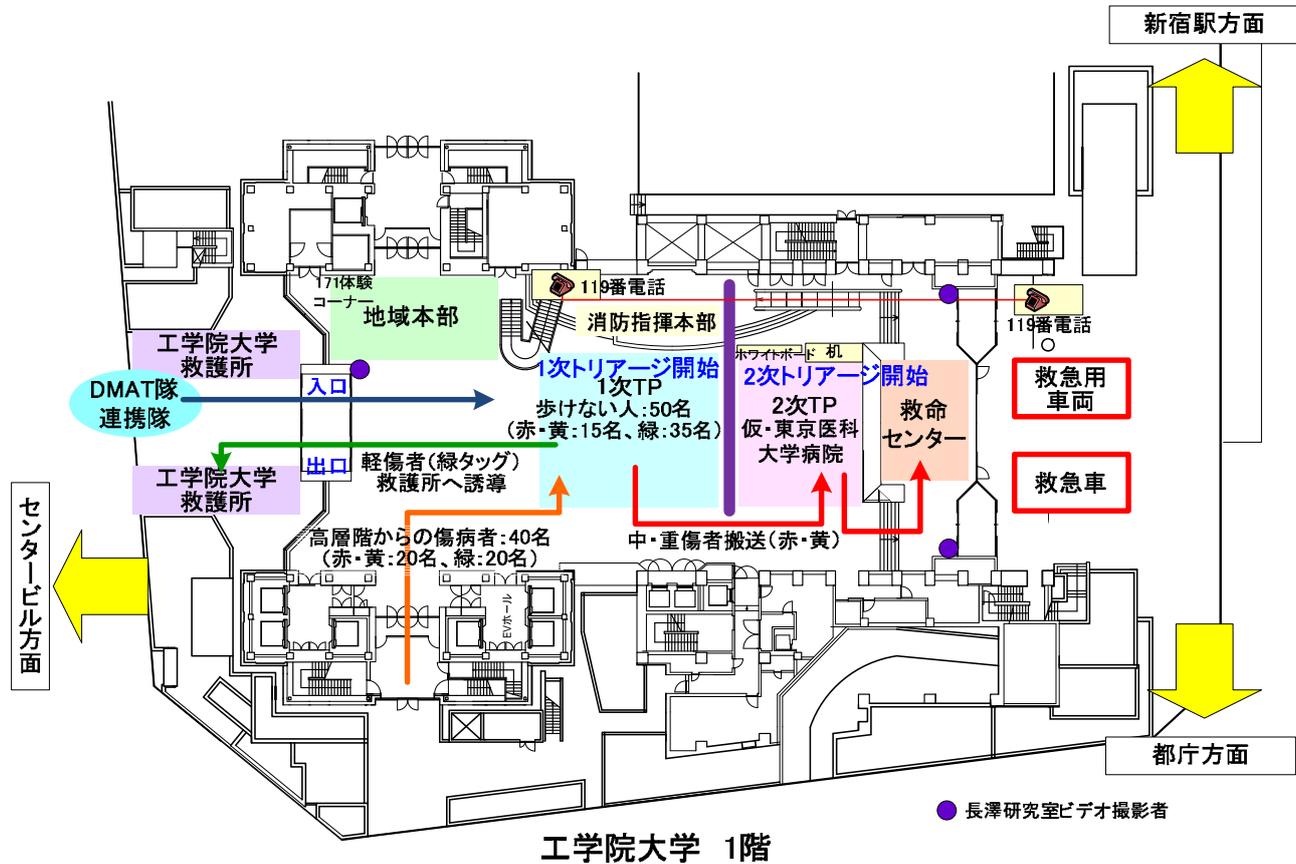
医師：2名、看護師：4名～5名、事務官：2名

消防指揮隊

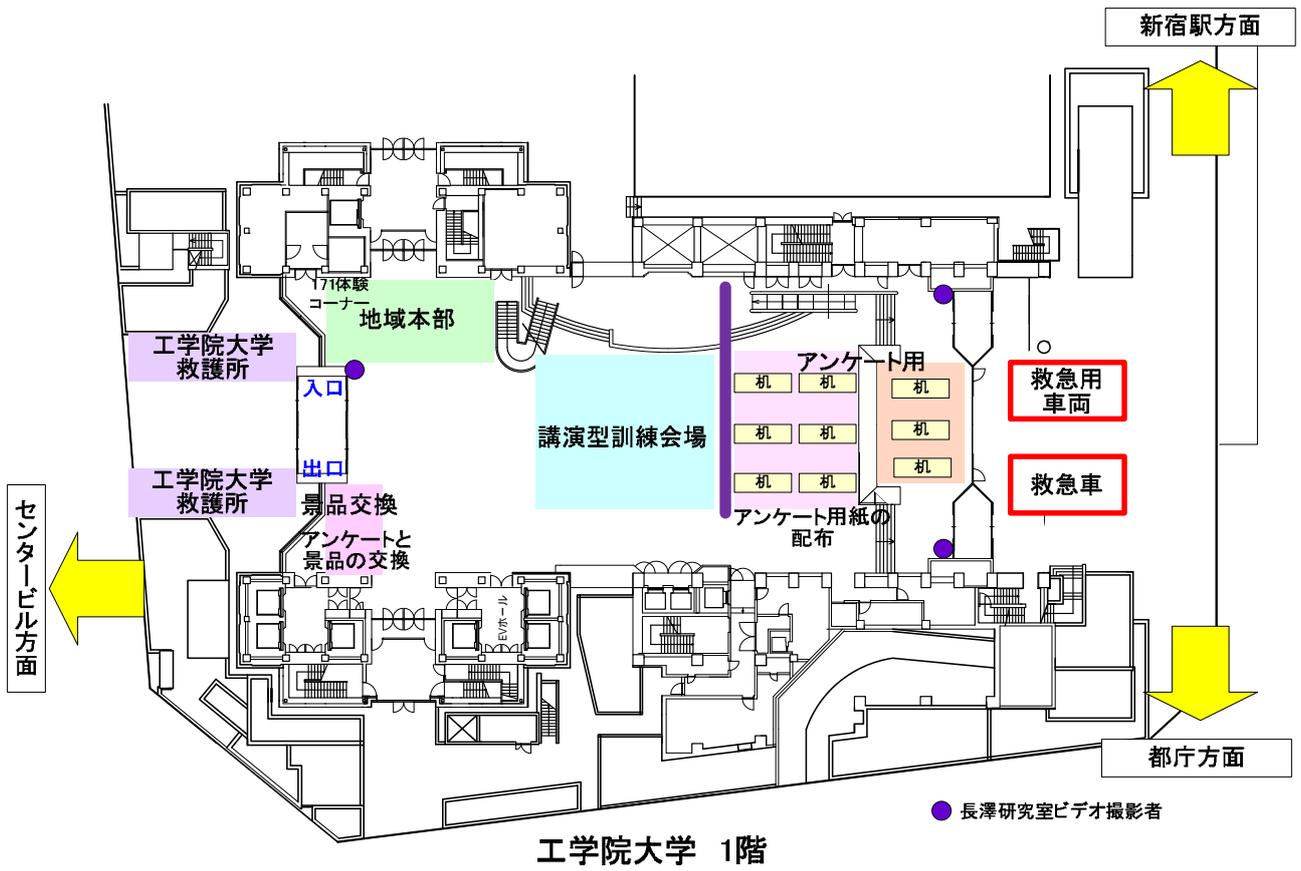
看護学生：約20名



13時35分から14時頃の会場レイアウト図



14時頃から15時頃の会場レイアウト図



15 時頃から 16 時頃の会場レイアウト図

# トリアージ

## 1 トリアージの概要

地震などの災害時・非常時には、短時間に多数の人がケガや病気になり、医療機関での診療・治療を必要とするようになります。医療機関の機能（医療スタッフや器材、医薬品など）にも限りがあり、災害時の制約された条件下で1人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うためには、病気やケガの緊急度や重症度によって治療や後方搬送の優先順位を決めることが必要になります。トリアージとは「病気やケガの緊急度や重症度」を判定して「治療や後方搬送の優先順位を決める」ことを言います。

## 2 トリアージタグとトリアージの区分

表1 トリアージカテゴリー

順位	分類	識別色	傷病状態および病態	具体的事例
第1順位	最優先治療群 (重症群)	赤色 (I)	生命を救うため、ただちに処置を必要とするもの。窒息、多量の出血、ショックの危険のあるもの。	気道閉塞、呼吸困難、意識障害、多数外傷、ショック、大量の外出血、血気胸、胸部解放創、腹腔内出血、腹膜炎、広範囲熱傷、気道熱傷、クラッシュシンドローム、多発骨折など。
第2順位	待機的治療群 (中等症群)	黄色 (II)	ア 多少治療の時間が遅れても、生命には危険がないもの。 イ 基本的には、バイタルサインが安定しているもの。	全身状態が比較的安定しているが、入院を要する以下の傷病者：脊髄損傷、四肢長管骨折、脱臼、中等度熱傷など。
第3順位	保留群 (軽症群)	緑色 (III)	上記以外の軽易な傷病で、ほとんど専門医の治療を必要としないものなど。	外来処置が可能な以下の傷病者：四肢骨折、脱臼、打撲、捻挫、擦過傷、小さな切創および控創、軽度熱傷、過換気症候群など。
第4順位	死亡群	黒色 (0)	すでに死亡しているもの、または明らかに即死状態であり、心肺蘇生を施しても蘇生の可能性のないもの。	圧迫、窒息、高度脳損傷、高位頸髄損傷、心血管損傷、内臓破裂等により心肺停止状態の傷病者。



図1 スタート式トリアージ

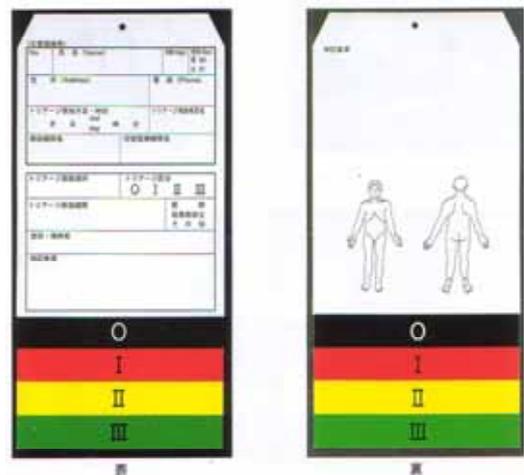


図2 トリアージタグ

病院防災ガイドブック「災害発生時における病院防災のあり方」編集：石原哲  
パワーポイント資料より

傷病の緊急度や重症度に応じ、次の4段階（赤・黄・緑・黒）に分類します。防災訓練では、トリアージの区分は東京医科大学病院のDMATが執り行います。傷病度の区分が終了すると、図1にある「トリアージタグ」という識別表に必要事項が記入を記入して、区分に応じた色が最下位になるように識別表が切り取られ、傷病者の体（原則として、右手首関節部）に取り付けます。

## ボランティア

### 1 トリアージタグ記録（建築系大学院生 4 名、決定済）

1 次ポストで東京医科大学病院の DMAT 隊に付き、指示に従いトリアージタグに必要事項の記入を行い、区分に応じた色が最下位になるように識別表を切り取り、傷病者の右手首の関節部に取り付けます。この際にトリアージの区分に応じた色の腕章を左腕に取り付けて下さい。

#### 事前講習：

日時：2008 年 10 月 9 日（木）15：00～16：00

（14：50 東京医科大学病院エントランス集合）

場所：東京医科大学病院

内容：トリアージタグの記入方法などについて

### 2 傷病者の介助・搬送（約 50 名）

1 階 北口エントランスに設置する工学院大学救護所に流入してくる傷病者を歩ける人、歩けない人に振り分ける（歩ける人には緑のトリアージタグを取り付ける（右手首の関節部分））歩けない人を 1 階アトリウムの待機所（ブルーシート）に誘導して寝かせて応急処置を行う（三角巾使用）。歩ける人対象に救護所で行う応急救護体験訓練（三角巾）のため、参加者に三角巾を配布する。

DMAT 隊によるトリアージが始まったら 1 階アトリウム 1 次ポスト付近で待機して、DMAT の指示に従い、傷病者を 2 次ポストに搬送する（担架を使用するので 4 名～5 名で行う）。

中・重傷病者役はムラージュを行っています。リアルな傷（下図写真参考）をしています但し本物の傷ではありません。



写真 トリアージの様子

参照：東京医科大学病院作成：「多数傷病者受入対応訓練報告書」

## 傷病者役

参加者：約 120 名（赤：5 名、黄：30 名、緑：95 名）

赤・黄の 35 名の学生はムラージュを実施、緑は症状を記載したプラカードを配布

内容：

傷病者役の 80 名（中・重症者：15 名、軽症者：65 名）は訓練開始前に 1 階北側玄関付近に待機。

・訓練開始後、応急救護所の緊急医療班、緊急対応班などの指示に従う

中・重傷者は 1 階アトリウムで DMAT によるトリアージに参加。トリアージ終了後は 1 階アトリウムで東京医科大学病院の医師による講演型訓練に参加。

軽傷者の学生は救護所で緊急医療班による応急処置（三角巾）の体験訓練に参加。終了後、体験型訓練などに参加。

残りの傷病者役は発災対応型訓練に参加のため高層階で待機（どこに待機するかは事前に連絡）

・高層階で行われる発災対応型訓練に参加。

・傷病者として 1 階の救護所に搬送される。1 次ポストでトリアージを受ける。

ムラージュ：

ムラージュとは、災害訓練の傷病者役に用いられる特殊メイク（下図写真参照）です。演出だけでなく、模擬傷病者役を演じる人の感情移入を促し、救助者のアドレナリンの放出を促す効果があると言われています。ムラージュによる傷は本物も傷と同様に手当が可能です。





写真 ムラージュを行った様子

参照：東京医科大学病院作成：「多数傷病者受入対応訓練報告書」

### 注意

ムラージュに参加する学生は汚れてもよい服を必ず持ってきて下さい。(ムラージュのペイントが付着する可能性があります)

ムラージュを落とすクレンジングと小さいタオル1枚は用意します

シャワー室は使えるようにしてあります。(シャワー用のタオルは各自用意して下さい)

